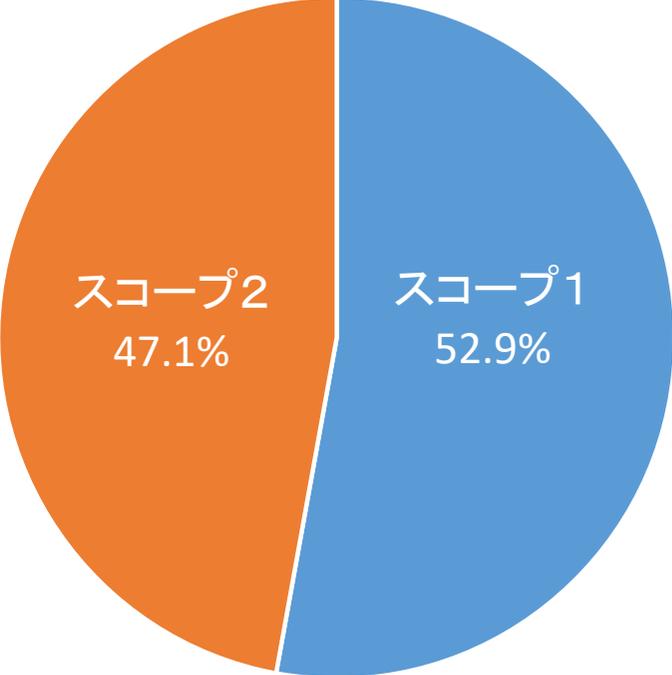


八洲建設株式会社

項目	内容
1.企業情報	<ul style="list-style-type: none">● 業種：総合建設業● 事業概要：建築・土木建設事業 再生可能エネルギー事業● 事業規模：従業員数49人
2.削減目標案	<p><Scope 1・2の削減目標と削減に向けた取り組み> 目標 2030年に2018年比で50%削減 取り組みとして営業車両及び工事車両について電化を推進する。 本社及び現場事務所で使用する電力の再エネ化を推進する。</p> <p><再エネ100%の目標について> 目標 2030年までに再エネ50%を達成、2040年までに再エネ100%を達成する。</p> <p><Scope 3の削減目標と削減に向けた取り組み> 協力会社との連携により、工事車両の電化の推進を図るとともに 原材料、消耗品の購入時にリサイクル製品等を優先的に選択する。</p>

八洲建設株式会社

項目	内容							
3.基準年のGHGインベントリ	<ul style="list-style-type: none">● Scope 1・2の排出量の状況  <table border="1"><caption>GHG Emissions by Scope</caption><thead><tr><th>Scope</th><th>Percentage</th></tr></thead><tbody><tr><td>Scope 1</td><td>52.9%</td></tr><tr><td>Scope 2</td><td>47.1%</td></tr></tbody></table>	Scope	Percentage	Scope 1	52.9%	Scope 2	47.1%	<ul style="list-style-type: none">● SCOPE1 : 83[tCO2]
		Scope	Percentage					
		Scope 1	52.9%					
Scope 2	47.1%							
<ul style="list-style-type: none">● SCOPE2 : 74[tCO2]								

八洲建設株式会社

項目	内容
4.気候変動によるリスクと機会の分析	<ul style="list-style-type: none">● 将来的に原材料やエネルギーの調達に関して価格向上や重大な変化が生じる可能性がある。● 顧客企業から建設事業に係るGHGの排出量の提示や削減要請が高まることが想定される。● 建設物の使用段階での排出量削減を求められ、削減につながる設計等の提案力を高めることが必要である。● 率先して自社が対策に取り組むことによる外部企業評価の向上が期待される。
5.削減目標設定の背景・目的・期待する効果など	<ul style="list-style-type: none">● 建設事業の顧客企業に対して、SDGsに取り組み、気候変動対策を実施している企業であることをPRしていきたいと考えており、まずは自社事業活動に伴うCO2排出量（削減量）を数値化し、具体的な削減計画の検討を行っていきたいと考えた。● SBT認証取得により、顧客企業や投資家からの削減要請に応えることを示し、ビジネスチャンスを拡大することを期待している。

八洲建設株式会社

項目	内容
6.目標設定のプロセスと社内の議論	<ul style="list-style-type: none">● 社内のSDGs検討チームで目標案を検討、経営層へのコンセンサスを得た上で、SBTイニシアチブへ提出。SDGs検討チームにおいては、各部門のメンバーによるチーム構成となっており、温暖化のリスクと機会を検討したことで、全社あげて取り組む必要性を共有できた。● 目標の実現可能性について社内で意見があったが、社会的な意識のバックキャストで目標を設定するという方針を説明し、理解を得た。
7.今後の課題	<ul style="list-style-type: none">● Scope 1の削減において、再生可能エネルギーの調達手法について検討していくことが必要である。● Scope3の削減を進めるために、協力会社と協働して取り組みを推進するためのデータ収集が課題となっている。